



平野が強く提案してきた介護分野への支援を!

動き出した神戸市

介護する人 される人

在宅介護や介護施設での負担軽減を目指したい!



市内の介護事業者

介護テクノロジーの関連企業



これまで → 医療産業を推進してきた神戸市に
これから → 介護産業にも取り組むべきと本会議提案を!
神戸市は早速「神戸市介護テクノロジー導入プロジェクト」と銘打った事業を好発進させたのであります。
今まで費用対効果面で噛み合なかった介護事業者と介護機器メーカーを、介護機器の開発段階から介護現場と連携できるように、**神戸市が見事にマッチング**させたのです!!!
介護事業所17施設・介護機器メーカー69社の予想を上回る応募が!
参加メーカーのレベルの高さにも驚きを感じつつ……
全国で初の試みとしての事業展開へ

(このプロジェクトは厚生労働省が介護報酬改定の参考にしてしている「ノーリフティングケア」を活用した【一般社団法人ノーリフト協会】が神戸市の委託を受けて事業展開をしています。)

まさに平野の提案が実現しました!

神戸市が介護技術の専門家とともに橋渡し



そこで、R3.9.24 本会議(総括質疑)にてさらに踏み込んだ答弁を求め質問しました。

69社の介護機器メーカーに対して介護機器が実際に現場で活用されている動画を作成支援するなど、販売促進に繋がるようなサポート支援策を強化すべきと考えるが、どうですか?



今西正男 副市長

介護テクノロジー導入促進プロジェクトは、介護現場の課題に対応した介護テクノロジーの開発と介護現場における介護機器の導入・定着を目的にしています。

具体的には介護機器に関心はあるが【導入に至っていない介護事業者】に介護機器を体験導入していただき、使用感や課題解決に繋がるかを確認して頂くつもりです。体験導入にあたっては【企業と介護事業者とのマッチング、ワークショップやセミナーの開催、ネットワークの構築】に十分、力を入れていきたいと思っています!さらにホームページで体験導入の状況をご紹介頂けるようなビデオも流していくことも考えられると思っています!

【平野意見】介護事業者が介護機器の使用感と課題解決につながるまで踏み込んだことで介護産業としてもかなり期待できますそして、結果的に介護される人、介護する人 在宅や事業所にも、大きな支援に結びつくと考えます!



医療産業都市神戸と言うなら

ANCHOR(アンカー)神戸の見直しを提案

大丈夫なの? 神戸に進出した医療関連企業への対応は……

【平野章三】は平成26年に医療産業都市として集積している【医療関連の病院、大学、研究機関、企業】などからポートアイランド2期に交流出来る憩いの場が欲しいとの【要望を頂きました】つまり、【医薬品や医療機器開発などへの産業化に】貢献出来る交流施設を求めていたので、平成26年予算本会議にて【平野章三】が提案しました。

【神戸市長】は「意見交換するようなフランクな場所が足りない」という認識は率直に持ちますので、それも含めて【平野議員の提案を】参考に検討させて頂きます」と答弁されました。

当初、平野は交流施設をポートアイランド2期に提案しましたがその後、神戸市は神戸三宮阪急ビル15階に「ANCHOR KOBE」という会員制交流施設を設置し、民間2社に運営責任を全て任せただけであります。

★ その結果、医療現場の集積している医療従事者からは距離があり、「ANCHOR KOBE」での【会員登録もなく】交流施設の活用が実質なされていないのが現状なのです。今や神戸市は【医療産業より】大学、企業、ITを含めた【スタートアップの交流の場として】活用し始めたのです

【平野意見】 一体、神戸市は何を考えているのだろうか?

★ 医療産業都市として既に20年以上が経過しても殆ど事業化が進まない状況なのに、それでもなお医療産業都市神戸と言うなら……

医薬品・医療機器などの事業化により【市民貢献】出来る努力を本気ですべきでしょう。



市役所2号館に求めるものは？



にぎわいの？ 高級感の？ それとも神戸市に具体策がないの？

神戸市はにぎわいを生み出すため神戸市役所2号館を再整備するとの事だが……神戸市はどのような施設内容にしたいのか？
ハイクラスホテル、国際的なビジネス拠点、カフェやレストランなど例示**だけ**！内容は採算面も含めて**民間事業者任せ**になっているのであります。

そこでR3年12月8日本会議にて 2号館の地下空間活用について

平野質問：地上は高級感ある国際的な2号館としても、地下に様々なジャンルの演奏が出来る**音楽ホール(ライブハウス)**を提案します。そうすれば、多くの人々は三宮駅周辺の地下街を通過して、直接地下ホールへ！市役所2号館の地上とは別世界～そして連日、ライブ演奏があれば地下街はもちろん、三宮周辺にはにぎわいのある活気が生まれることとなります！

今西副市長：
提案いただいたライブハウスもにぎわいの形態だと思っています。民間の提案の中で事業採算性、集客回遊性を考慮した提案をいただければ、**選考委員会ですっかり議論**させていただきたい。

地下鉄海岸線・バス事業の厳しい経営状況に

- 神戸市交通局は乗客増の取り組み
 - 総人件費の削減
 - 市バス車両購入費用の削減
 - 施設・設備の長寿命化
 - ダイヤの見直し
 - 職員と車両の稼働率向上など
- 決算市会 (R3.9.16)

【平野 章三】質問
交通局も地方独立行政法人・神戸市民病院機構と同じような資金調達していく運営に切り替えては！
交通局の資産を有効活用すべきであり、特に地下鉄西神中央駅の広大な車庫や中央営業所・石屋川営業所のバス車庫などの上部活用による収益を確保し、経営改善に取り組むべきでは！

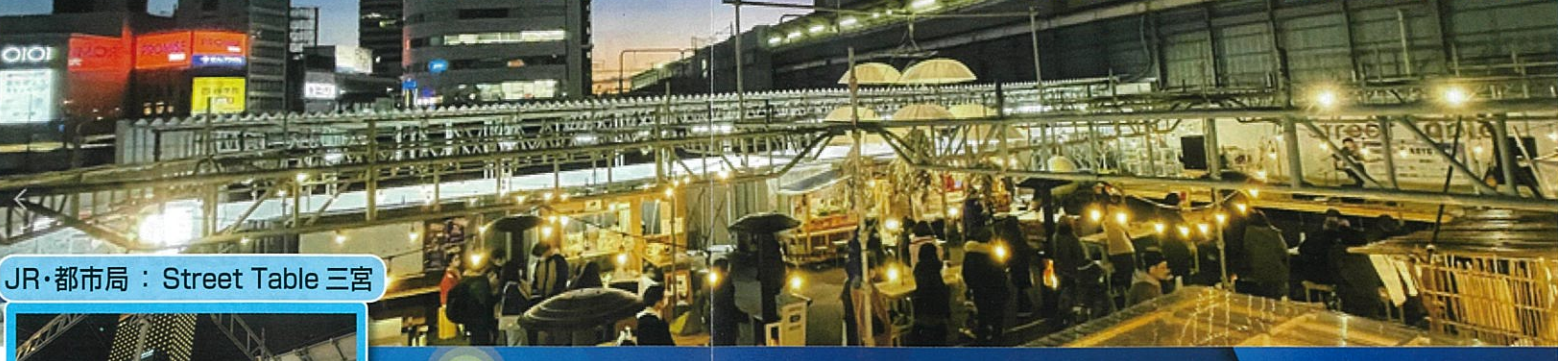
【交通局長】の答弁
独立行政法人化についてはやはり当然、収益力が上がることが期待出来ますが移動コストや神戸市の関与が低下するという課題が大きいと考えています。ご指摘のように交通局のバス、地下鉄の資産を有効に活用していくことは非常に大切。

【平野意見】 大胆な改革には課題もあるが独立行政法人への挑戦をしなければ前進はないだろう

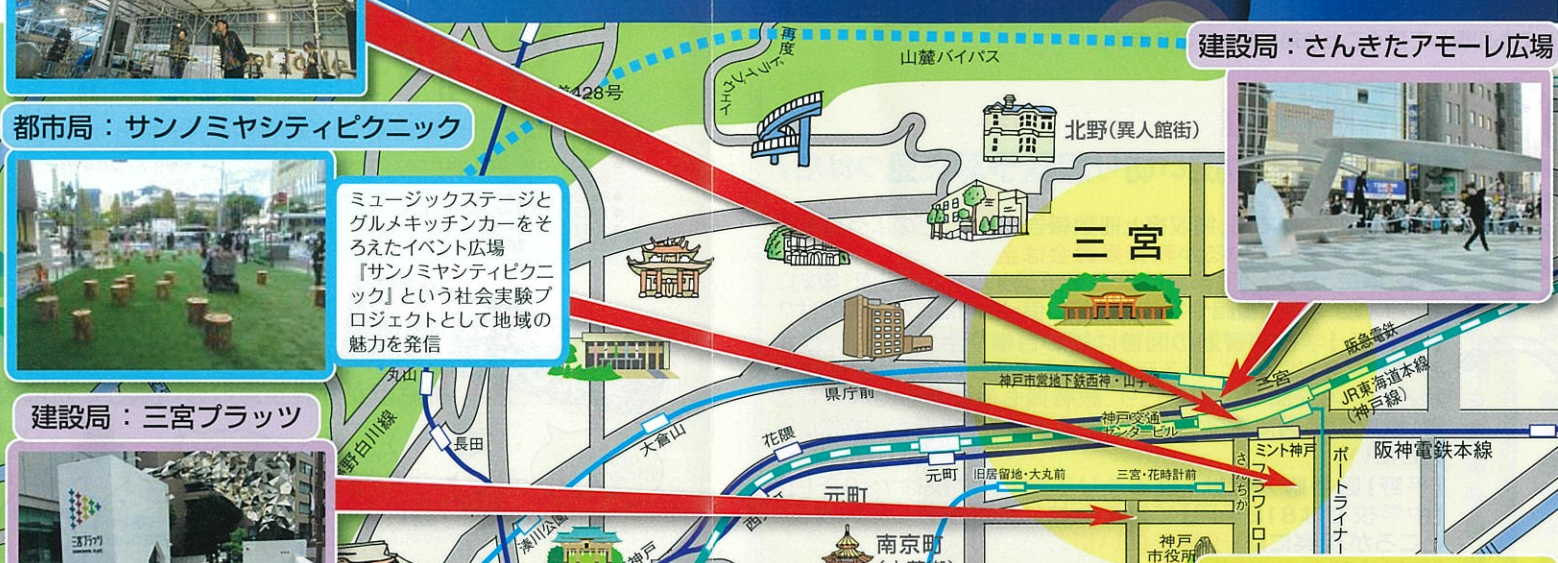
マリニピア神戸の土地活用事業 優先交渉権者が決定 (神戸市広報より)



いつでも・どこかで楽しめる「音楽の街こうべ」を提案！



目覚める三宮 街の賑わい/食と文化



神戸市各局の音楽ライブマップ



【平野 章三】が長年、言い続けてきた神戸に「音楽とグルメの屋台街」で「にぎわい」を提案

…… 実は市長も目指してた!? ……

市長：
ストリートテーブルやサンノミヤシティピクニックは、にぎわいづくりの社会実験。一定の賑わいが創出できたと思う。今後はこのように**にぎわいづくりの取り組みを着実に進め**、日常を快適に過ごすとともに、市民や来街者が**音楽やグルメ、アート等を楽しみ**様々な出会い、ワクワクする体験ができる。そういう都心・三宮を目指す一助としていきたい

平野質問：「音楽の街こうべ」を推進していくために例えば、企画調整局が中心となり、音楽ライブ、グルメ屋台やキッチンカーの地元活用等それぞれ関係局がノウハウを持ち寄り、「**音楽の街プロジェクトチーム**」とするなど一体となる組織体制ができないか

しかし、せっかくの「**にぎわい企画**」も各局それぞれ独自展開では **もったいない!**

今西副市長：
音楽を中心に街づくりを考えることは、大変重要。新たに音楽を取り入れて街を盛り上げていけないか**エリアマネジメント**のような組織を作って具体的に、**専属のチーム編成**をしたいという思いがある

王子公園内の動物園再整備と大学誘致 抱き合わせ再整備が中途半端に



王子動物園の再整備は老朽化問題と、他都市において、魅力ある特徴を打ち出し、人気を殺していることが、**神戸市**にとっても重要課題の一つと考えるのであります。その意味では**王子動物園の建て替え**には、現用地の売却益により、思い切った郊外の広大な用地を確保し(一例として**神戸ファイナリー農業公園**に移転の場合は相乗効果があります)斬新な発想での整備が、現地建て替えでも公園内の更地で余裕をもって整備した後、一斉に移転すべきであります。ところがおそらく、特定の大学進出の申し入れに対して**誘致の方針を優先**したことで動物園が現地建て替えになったのではないのでしょうか？
★**市長**は「動物園の郊外エリアの移転も検討したが、事実上極めて難しいとの結論に至り現在の場所で改修や建て替えを進める」との発言の曖昧さがその事を物語っているのかもしれない!

教育長がお詫びと改善を明言 ～ 平野 章三の指摘で!

8月20日(金)に教育委員会事務局から**全学校、園へ《至急対応》【夏季授業実施方針】**との指示を受け、教職員の方々は各ご家庭への連絡、授業の準備などの対応に追われました。
ところが**《定時を過ぎた時間に突然》**教育委員会事務局から**【夏季授業は実施しない】**と学校を通さず**直接、保護者宛に【すぐーる】**(教育委員会事務局と保護者との新たな連絡ツール)を活用して発信。
(同じ頃に学校園にもメールで発信はあったものの、【定時を過ぎていたので】ほとんどの教職員は帰宅後でした。)

保護者には同日に正反対の連絡が! 全学校、園は大混乱!!!

各学校、園の先生方と教育委員会からの内容どちらが正しいのか迷う保護者
帰宅後でも何も聞かされていない学校長・教員

一年前も**臨時休業方針を学校現場へ連絡するのを忘れており大問題**になっていたこともあり
あまりにも現場を軽んじる教育委員会事務局に対し、**9月1日委員会にて平野章三質問**

昨年もありながら今回…、私も非常に**申し訳ない気持ち**と非常に歯痒いおもいです。
当然**反省**をすべきであり、経緯とお詫びについて何らかの方法でしっかりとお届けし
心をついに・気持ちをついに **一緒に乗り切っていく**ことが大切だと思います!

との === **教育長の謝罪の答弁** === がありました

この度の平野 章三の質問に対して【教育長が明確に謝罪】し、すぐに学校、園へも、【お詫び】とともに【**情報伝達の仕組みを改善する**】と通達がありました。今後、教育委員会事務局と教職員の方々との信頼関係が少しでも回復して頂くことを節に願っております。



教育長答弁:



小原副市長

**“市民図書室”って知っていますか?
利用したことがありますか!**



長田教育長

神戸市は昭和40年代に市民図書室(現在83カ所)を学校施設開放事業として設置から今日まで、運営費・図書購入費・管理者報酬など貸出者数や開室時間毎ではありますが、毎年同様の予算配分を繰り返してきました。ところが、教育委員会事務局は市民図書室の購入本を全く**把握せず**に**助成し続けている**という**予算執行のずさんさ**に呆れるのであります。

そこで、市民図書室の在り方を時代のニーズに合うよう根本的に見直すべきと**12月8日本会議にて提案**しました。**質の高い拠点図書室としての集約化を図る必要がある**と思います。

まずは**蔵書をデジタル化**し、いつでも所蔵図書が確認でき、予約可能な効率のよい図書室に見直すべきでしょう! 現在、中央図書館ネットワークを活用した貸出・返却が可能な市民図書室が12ヶ所あります。そこで拠点機能の更なる拡大を図るべく、教育委員会と文化スポーツ局が連携すべきではないでしょうか

【平野 章三】のこのような質問に対して

【副市長】運営を担って頂いている市民のご意向も関係しますが、いずれにせよ効率的効果的な図書サービスの向上を図る観点から、どのようなことができるか教育委員会とともに検討をすすめます。

【教育長】図書の質の充実向上を図るため、選定に関するガイドラインの策定、実態実情の把握、地域のご意向も伺いながら、時代の変化に対応した仕組みになっているかどうかより充実したものとなるよう努めてまいります。

【平野意見】さらなる質の高い市民図書室へ動きだしそう!



**学校司書の予算が足りないって?
図書購入費の使い切り無駄予算を見つけた!**

学校図書についても、領収書と冊数報告のみで、どのような本を購入し、所蔵しているか**教育委員会は全く把握していません**
平野 章三 の提案 まずは蔵書をデジタル化し、把握・集約。そうすれば中央図書館や学校間の貸し借りも可能になるのでは?

【教育長】学校図書館の図書は紙の台帳や手書きで、改善が必要と考えています。システムを導入することで、児童生徒が読みたい本を簡単に探せたり、教職員も他校からの取り寄せ等、授業の準備に有効であると考えます。今後調査・検討していきたい。

【平野】図書購入費は1校あたり平均【小学校は733千円】【中学校では812千円】で毎年全校に予算配分しています。ところが現実には**「予算を使い切るため毎年苦労している」「年鑑や辞典を無理して購入している～」「教頭に、こんなに買ってるんや～と驚かれた」**など。市民図書室同様、毎年基準通りの予算配分だけのずさんで怠慢な仕事ですね～

行財政局さんチェックしてるの?

たとえば図書購入費は使い切りから**申請型**にすると、中学 1校分の図書購入予算 80万円として2校分で、学校司書1人分(年間130万円)が生み出せます。

学校司書配置の現状～全校245校 → 配置171校(内2校兼務42校) 司書 152名 → 未配 70校余
単純に**全校図書購入費を半額にすると**、
学校司書予算約140人分

152名+140 = **292校分** に!

図書購入費の中で一人1校配置が可能だ!
予算が足りないからと当初の全校配置決定から兼務校へ方針転換していますが、実態を把握し、児童生徒のためにもっと汗をかいて下さい 教育委員会事務局さん



R3.9.24 総括質疑冒頭にて平野章三 私見を読み上げました

“にぎわい・ある・まちづくり”を神戸市の魅力として打ち出してから未だ一向に全体像が描かれていないのであります。そればかりか、各局が事業推進していく上で例えば、◆ **教育委員会事務局** は度重なる失態や突然の方針変更などで学校現場の関係者は**大混乱**ばかりが続き、◆ **行財政局** は神戸市の貴重な財政を預かっているにもかかわらず**査定**の**甘さやずさんな処理**でも**押し通す**ことがあり、◆ **企画調整局** は細かな事業ばかりに振り回され、最も重要である【全庁的な視点からの政策に関わっていない】ようです。◆ **他局** でもまだまだ問題が多いがそこに**“天の声が影響”**したとしても、**責任が持てる政策を!**

☆ さらに局間で**一体感**が生まれるよう**指揮命令と組織のあり方を見直す必要**があるでしょう! 優秀な神戸市職員さんなので**最低限の責任範囲を踏み外す**ことなく、毅然として**本来の実力を発揮**して頂きたいものです。



全国から神戸にチャレンジ!!

★ **Battle de egg** は音楽活動を担う若手人材の発掘・育成に向け平成25年神戸で誕生し、その後神戸市と官・民共同主催による次世代アーティスト育成プロジェクトの支援事業として立ち上げたのであります
◆ その第1回の優勝バンド「VINO(ヴィーノ)」は、ラスベガスの《フリーモント・ストリート・エクスペリエンス》の野外ステージで日本人初の単独ライブ演奏するなど現在も活躍中なのです!



◆ 第10回目のロックバンドコンテストが本年も開催され、全国から毎年約400バンドの応募があり!
【この神戸の地で】音楽コンテストが繰り広げられております
★ このように“こうべの街のにぎわい”として特に最近《音楽とグルメの屋台街》などに各局が動きはじめました
★ いつでも・どこかで楽しめる《音楽の街こうべ》を求めて長年提案し続け、いよいよ実現へ歩みはじめました!
【神戸市長】も、市民や来街者が音楽やグルメ等を楽しみ様々な出会い、ワクワクする体験ができる都心・三宮を目指す一助としていきたい!!と

第10回 Battle de egg



優勝バンド Arakezuri

神戸空港の体制強化について

【平野章三】令和4年2月25日本会議 依然としてコロナの収束が見えない中、2025年の関西万博や、その後のIRといったビックプロジェクトが確実に差し迫ってきております。関西万博では国内外から約2,800万人の来場を見込んでおり、また、関西万博に向け、関西国際空港では、第1ターミナルのリノベーションを行い約4,000万人の受入体制が整えられるなどの動きが進められています。今後、具体的に予測されるインバウンドも含め、国内外の観光需要の好転に対し、関西3空港懇談会の中でも、関西圏の受け皿としての準備体制が、今まさに重要課題として上がっています。一方で、神戸市も都心三宮再整備をはじめとして、ウォーターフロントエリアの活性化など、神戸の魅力づくりに向けて着実に進めているところであります。今後、関西経済の底上げを図るには、関西全体の航空需要拡大と、関西経済連合会や関西エアポート、国土交通省、兵庫県をはじめとする関係自治体などとも連携を強化した上で神戸もインバウンドや投資を呼び込む千載一遇のチャンスが巡ってきた最も重要な時期に差し掛かってきたといえます。平野章三



「神戸空港の役割は何か」を今求められているのではないのでしょうか

関西3空港懇談会において、神戸空港については、関空、伊丹を補完する観点からの国際化を含む空港機能のあり方についての検討を深化させ、次回懇談会で報告することが決まったと聞いており、今後の神戸経済の鍵を握るとも言える神戸空港の機能強化につながる大胆な提案を、スピーディーに進める必要があると思います。この機に、次回懇談会に向けて神戸市として積極的に協力体制の推進に取り組んで頂きたいと思いますが、市長の見解は如何でしょうか。



【神戸市長答弁】

令和4年1月13日に、第11回の関西3空港懇談会が開催され、神戸空港については、関空・伊丹を補完する観点から《国際化を含む空港機能のあり方》について、神戸市による検討を深化させ、次回(第12回)懇談会で報告するよう決議された。関西の3つの空港のあり方については、関西の航空需要拡大と関西経済の活性化に向け、着実に実現させていくという合意内容であり、非常に重要なものと認識している。神戸市としても運営権者である関西エアポート株式会社と連携し、スピード感をもって神戸空港の国際化を含むあり方を検討し次回の懇談会において積極的に取り組んでいきます。

久元市長

このように神戸の明るい未来が開かれるような展開に今後の期待をしたいと思います



平野が申し入れた 中小企業支援の政策提案が2月補正にて実現!

昨年10月、認定支援機関から要望を受け、コロナ禍の経済状況下、中小企業・小規模事業者への資金繰りと経営課題など、経営改善計画の策定に2月補正予算で支援すべきと平野は昨年末、提案と要望を行いました!!

その内容は

- 1 「経営改善計画策定支援事業」 補助率 上限40万円
- 2 「早期経営改善計画策定支援事業」 補助率 上限5万円
以上2点国が認める税理士など専門家が支援する事業です
- 3 「事業再構築補助金」 補助率 上限25万円
《新分野に業態・業種転換、事業再構築に係る費用を支援》

このように【ポストコロナの持続的発展の計画事業】として、国が中小企業・小規模事業者に対して、経営改善計画、生産性向上への取り組みを税理士などの認定支援機関の助力を得て支援し、さらに、神戸市が自己負担額の1/2を補助する事業となりますので、今後は複雑な事業計画策定などに役立つ支援になるでしょう。神戸市に提案し、実現へ予算化出来たことで一安心致しました。

国の補助事業	1.経営改善計画策定支援事業	2.早期経営改善計画策定支援事業	3.事業再構築補助金
補助率(上限)	自己負担額の2分の1(40万円)	自己負担額の2分の1(5万円)	自己負担額の2分の1(25万円)
事業目的	経営改善計画策定促進	コロナ禍の借入金の返済が本格的に開始される中、市内中小事業者の客観的な経営状況の把握や金融支援を伴う経営改善などを支援	神戸市内中小事業者再構築の促進

神戸市独自の支援

平野の提案
を受け

R3年 神戸市は全国で初めて

介護産業のプロジェクトがスタート



神戸市介護テクノロジー導入プロジェクトによると、無料相談窓口へ企業76件、介護施設36件、一般11件あった中、介護事業者と介護機器メーカーとのマッチングより先にまず、ニーズ(介護事業者)・シーズ(介護機器メーカー)のマーケティング戦略が重要であることがわかりました。

介護機器メーカーは商品化している機器のターゲットとして、貸し出し先や用具利用の選択、安全性、ケアの品質、満足度など、介護事業者とのマッチングには企業の営業努力以前に実用化に向けた課題整理の必要性が浮上してきたのであります。

介護事業者は機器利用による負担軽減、人材不足解消、介護度の想定や効果、導入条件、体験してみたいと取り扱いやささなど、複雑多岐にわたる運用課題への具体性に関心の高さが集まりました。

そこでR4年2月25日、神戸市介護テクノロジー導入プロジェクトについて【平野章三】は本会議で質問

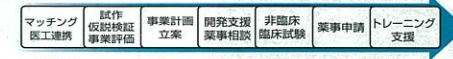
平野「神戸市介護テクノロジー導入プロジェクトの調査成果を神戸市の介護産業として、今後どのような方向性を打ち出すのか」提案ですが、このプロジェクトに介護事業者、介護機器メーカーが既に登録されており、相互に連携をとることでガイドラインを作成し、介護テクノロジー導入に向け、神戸で継続的にコンサルティングが出来る体制が整いました」そこで、あらゆるニーズ・シーズのマーケティング戦略拠点として、例えば【介護テクノロジー事業化支援神戸モデル連携センター】のような、介護事業者、介護機器メーカー、海外の機器メーカーからの参入要望などの受け入れ、事業化に向けて調整センターの立ち上げを検討して頂きたいと思いますが、如何でしょうか」



医療産業分野では

専任コーディネーターによる技術シーズの発掘～事業化をサポート

伴走支援



55件製品化

開発フェーズに応じた伴走支援を実施



【今西副市長】令和3年度から新たな介護テクノロジーの開発と、介護事業所へのテクノロジーの導入の両輪で進める必要があります。医療新産業本部と福祉局が一体となり、介護テクノロジー導入プロジェクトに取り組んでいます。

ご提案のニーズ・シーズのマッチングやコンサルティングなどの事業化支援の仕組みの構築につきましては、**常設的なものが必要だ**と思っています。例えば、医療機器の分野では、神戸医療産業都市推進機構に**専任のコーディネーターを配置**し、伴走支援を行っております。これも参考に介護分野の事業化支援の仕組みを検討してまいります。
【平野章三】「神戸市介護産業」をインターネットで(検索しても)何も出てこないで、簡単に見れるようなサイトも大事では～
【今西副市長】この事業自身が事業化支援の常設的な窓口になれば、ホームページも立ち上げ、体制強化も含めてやらせていただきます。

ワークショップへの参加

介護テクノロジー導入計画書の作成および修正

機器の貸し出し

体験後アンケート

体験終了

体験導入フロー

教育現場で生徒に寄り添う斬新な取組み 「習熟度別学習」で学力向上へ

授業を生徒の理解度に応じてクラス分けし、基礎・基本を繰り返し進度をゆっくり設定した「習熟度別指導」の取組みをしている桃山台中学校！

当初、授業時間内の【特別クラスの設置】には、生徒や保護者が様々な不安を感じるのではと心配する声もあったようですが、2年目3年目と参加希望を募ると一生徒からも保護者からも定員を上回る程好評！とのこと。授業についていけず、家庭学習や塾などでも【支援を得られない生徒】は学力の差が広がり分らないから授業が面白くない・と、負の連鎖に陥りがちだが、習熟度別なら、ゆっくりした流れの中でしっかり学べる!! **学習指導に取り組む学校現場の先生方と生徒・保護者との信頼関係が!!** 今、学力向上に大きく前進しているのであります。

生徒の将来を思うと他校にも展開していくことがまさに重要!!

ところが、本来はこのような教育政策を全市に普及できるように、主体的に取り組むべきは神戸市教育委員会事務局なのに…
現教育長はじめ行政職で固めた組織で **学校現場丸投げ体質!?**
今の組織体質のままでは、神戸市の教育に明るい兆しは見えないでしょう。



学校現場の調査結果を無視!?

ドリル選定に問題ありと平野が指摘!?



令和3年度、神戸市教育委員会事務局は全小・中学校に「タブレットドリル」を一律に採用させた。ところが、活用調査では使いづらくほとんど活用されていなかったことが判明

必要とするもの、使いやすいものを何故選べないのか?

一昨年末で小・中学校のドリルは保護者の理解(保護者費用負担)を得て、各学校が選定することができていました。そこで平野は教育委員会に強く問題提起!

平野章三と教育委員会事務局との 激しい闘いが!

- 小・中学校245校に学校司書配置の方針が一転!?
- 司書の予算が足りないって!
- 学校司書の重要性から財政部に予算要望すべし
- 全校の蔵書内容を把握せず予算配分だけ
- 学校からは、そこまで図書予算要らないのに?
- デジタル化すれば図書活用は新たに展開できる
- 図書購入費から学校司書予算の捻出を校長会で相談すべし

しかし教育委員会事務局は来年度も同じ方針→汗はかかないところが～なんと～!! 12月に平野が学校司書と学校図書予算を本会議質問したことで

来年度、調査・検討費として予想外の2千万円の予算が計上

おそろく～市長と行財政局長の改革への強い意思表示でしょう!! 教育委員会事務局は蚊帳の外でしょうがこれで教育現場が少しでも改善されることを期待できます。



学校現場に寄り添ったドリル選定を平野が提案した結果 実現しました!!

要望すれば「みんなの学習クラブ」も学校運営費(校費負担)で使用出来ることになりました。

※尚、学校運営費に影響が出来る場合には教育委員会事務局が相談に応じますと方針決定しました。

「マリンピア神戸」土地活用事業優先交渉権者決定に 地元対応必要では、国道2号線大渋滞

マリンピア神戸の優先交渉権者決定と知らせがありました。その主な事業内容は、明石海峡大橋やラグーンなどの景観が活かされ、(「にぎわい施設」として、かなり魅力を感じますので否定はしません。ただ、これほどの事業計画を地元に全く説明もなく事業推進する神戸市に驚いています。

神戸市は選考委員会での「新たな魅力と活力の創出」だけを評価するのではなく、施設建設での工事中の問題や完成後の集客人数による、さらなる渋滞対策等々についても、**地元や事業者者に説明する責任**があるのではないのでしょうか!

神戸市はイケイケどんどんだけでなく事業計画での【問題点も同時に検証】すべきと思うが!



小東山6丁目交差点渋滞解消には依然厳しい!



交差点内でUターンするためさらなる渋滞が!

小東山6丁目交差点周辺整備により南・北行き直進車はスムーズに走行できるようになりましたが、依然、南・北行きとも右折ラインは渋滞解消できていません。その上、交差点からの西行きは国道であり、西方向から交差点内をUターンしてコストコ方面に向かう車両が多く、さらに渋滞しているのですが、拡幅工事など国への要望や信号機の時間調整などの対応を申し入れていかなければならないでしょう!